



サイボウズスタートアップス 安否確認サービス2

安否確認サービスの必要性&他社比較



サイボウズスタートアップス株式会社



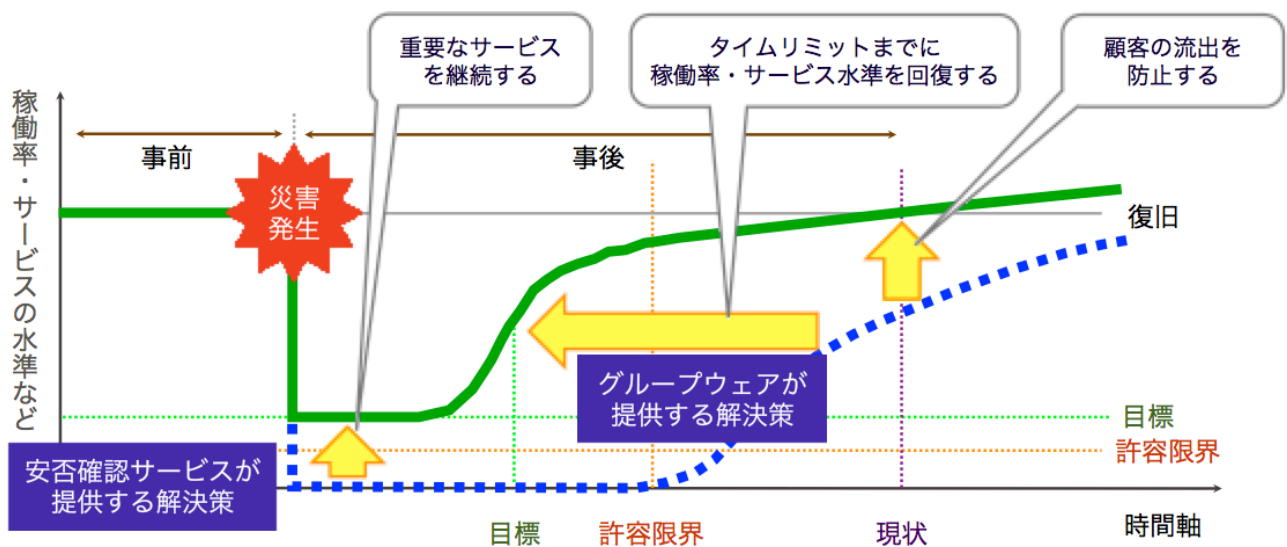
事業継続の取組みについて

企業は、災害や事故で被害を受けても、取引先等の利害関係者から、重要な業務が中断しないこと、中断しても可能な限り短い期間で再開することが望まれています。また事業継続は企業自らにとっても、重要業務中断に伴う顧客の他社への流出、マーケットシェアの低下、企業評価の低下などから企業を守る経営レベルの戦略的課題と位置づけられます。

この事業継続を追求する計画を「事業継続計画（BCP）」と呼び、内容としてはバックアップのシステムやオフィスの確保、即応した要員の確保、迅速な安否確認などが典型です。それらは事業内容や企業規模に応じた取組みでよく、多額の出費を伴わずとも一定の対応は可能なことから、すべての企業に即応した取組みが望まれています。
(内閣府 ホームページより)

目指すもの

災害が発生しても重要な業務については、許容される期間内に操業度を復旧させ、また許容限界以上のレベルで事業を継続させることを目指します。



BCPで想定する危機

ビル火災のようなローカルな事態から、大地震や洪水または世界的伝染病の流行のような国家的事態を含む。また重要なインフラの喪失、窃盗や破壊の結果といった事業が依存しているあらゆる事態を含み、事業喪失の可能性を引き起こし得るあらゆる事態が考慮されなければならない。

他社との比較

「他社の安否確認サービスとの違いがわからない」とお問い合わせが多かったため、問い合わせのあった会社との比較表を作成しております。

1. 最大の特徴

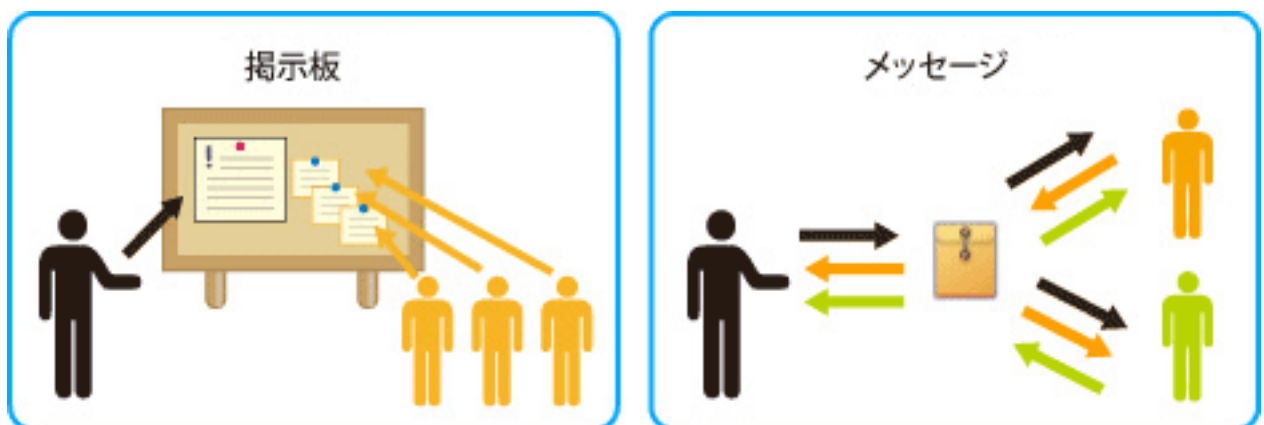
他社の安否確認システムとの最大の違いは、グループウェアで養われた誰でも使えるコミュニケーション機能になります。弊社の安否確認サービスには一斉送信に加え、災害に必要な2つのコミュニケーション手段があります。大災害翌日に全社員を自宅待機にするのか、通常出社させるのかや、どの復旧作業を最優先にするのかなどを、プライベート情報を教え合う必要もなく、主要メンバーで議論する機能（メッセージ）があります。また、現在の状況や今後の予定を心配な社員に知らせる（掲示板）ことができる機能が本サービスにはあります。

導入を検討している他社の安否確認システムは、緊急時に主要メンバーで議論し、指示が出せますか？

「安否確認をするだけ」の安否確認システムで、BCP対策は十分ですか？

メッセージ機能の特徴は以下になります。

- ・ 個人情報である緊急連絡先を教えあう必要がないこと
- ・ 設定によって、「マネージャー以上」もしくは「誰もが」その場でグループを作成できること
- ・ 書き込みに対して、登録したグループメンバーに通知されること



2. データセンターの運用体制

当社のコンセプトは、東日本大震災レベルの災害時でも利用できる体制にあります。そのため、あえて国内にデータを保存せずグローバルに分散をさせております。また、安否確認サービスは緊急時だけに集中アクセスが想定されるサービスであるため、今後ユーザーが増えてきても緊急時のアクセスをスムーズに処理するために Web サーバーを自動的に拡張させる運用体制を取っております。このようなクラウドサービスは、他社にない新しい時代のサービスだと考えております。

	Cstap (サイボウズスタートアップス)	警備系大手 S社	通信系大手 N社
稼働場所	3 拠点 (メイン：シンガポール、サブ：米国、日本)	2 拠点 (東京、大阪)	非公開
対障害性対策	日本からの自動監視体制 異なるデータセンターでシステムを多重化	非公開	非公開

3. 情報公開の体制

大手企業だからといって安心できるのでしょうか？

我が国の技術力を持ってしても原子力発電所をコントロールできなかった現実もあります。当社では、取り決めをしている基準やルールは積極的に公開し、ユーザー様にその運用をお約束いたします。また、随時、指摘を受けながら改善をしてみたいと考えております。

	Cstap	警備系大手 S社	通信系大手 N社
データセンタの 明確な選定基準	あり	非公開	非公開
セキュリティ 対策のルール	あり	非公開	非公開

情報公開ページ【 <http://anpi.cstap.com/yardstick.html> 】

4. アプリケーションの機能

他社の情報に関しては、調査して「ない」ことが確認できないため「非公開」としてあります。

「最大の特徴」でも述べた様に、弊社のサービスはコミュニケーション機能があることです。一斉連絡、情報集計だけでなく、任意の人とプライベート連絡先を教え合うことなくコミュニケーションできる唯一の安否確認サービスと考えております。

「ただの安否確認」で終わるのか、「対策指示」まで含めたシステムにするのか、安否確認システムの導入目的である BCP の観点から考えると選ぶべきシステムは明らかだと考えております。

要件	サイボウズ スタートアップス	警備系大手 S 社	通信系大手 N 社
災害／緊急時の安否確認連絡が手動でできること	可能	可能	可能
一斉送信は、平常時でもアンケート等他の利用で使えること	可能	可能	可能
管理者は、携帯、スマートフォンから一斉送信ができること	可能	非公開	非公開
一斉送信で送信したメールのエラー原因分析が可能なこと	可能	非公開	非公開
一斉送信でメール以外の手段で連絡できること	可能 (Twitter、スマホ専用アプリ)	可能 (電話)	可能 (電話)
災害時の安否確認連絡が自動でできること	可能	可能	可能
パンデミックに対応し、送信の予約設定ができること	可能	可能	可能
防災訓練として、予め設定した時間に一斉送信ができること	可能	可能	可能
津波時に安否確認の一斉送信が自動でできること	可能	可能	非公開
特別警報時に安否確認の一斉送信が自動でできること	可能	非公開	非公開
地震速報の地震発生地域に合わせて、一斉送信する地域を設定できること	可能	非公開	非公開
地震や津波に連動させる地域は、都道府県単位でなく、詳細地域で設定できること (例；東京 23 区)	可能	非公開	非公開
災害時に余震を判定し、自動送信の乱発を制御できること	可能	非公開	非公開
地震の統計情報を提供している	提供	提供	非公開
PC、携帯・スマートフォンなど各種端末で回答ができること	可能	可能	可能

要件	サイボウズ スタートアップス	警備系大手 S社	通信系大手 N社
安否確認の回答時にログイン、パスワード登録が不要であること	可能	非公開	非公開
自主回答が可能であること	可能	可能	可能
代理回答が可能であること	可能	可能	非公開
連絡状況を自動集計できること	可能	可能	可能
連絡状況を部署別、地域別に自動集計できること	可能	可能	可能
連絡状況を携帯電話から確認できること	可能	可能	可能
連絡状況を管理者によりデータのダウンロードができること	可能	非公開	可能
連絡状況の集計結果を管理者以外の権限者が閲覧可能であること	可能	非公開	可能
未登録者へ再配信できること	可能	可能	可能
未登録者へ自動で再配信できること	可能	可能	可能
緊急時に情報を掲示する掲示板機能があること	可能	可能	可能
掲示板には、マニュアルなど添付ファイルを掲示できること	可能	非公開	可能
掲示板には、誰でもコメントが書き込めること	可能	非公開	非公開
部門を限定した掲示板の作成ができること	可能	非公開	非公開
掲示板へのコメントには、写真などを添付ファイルで報告できること	可能	非公開	非公開
プライベート情報を教えあうことなく、任意に選んだ複数人と議論などのコミュニケーションができること	可能	非公開	非公開
各ユーザーは、自身の地域を設定できること	可能	非公開	非公開
各ユーザーは、携帯・スマートフォンから全ての緊急時の操作ができること	可能	可能（全ての操作ができるかは不明）	可能（全ての操作ができるかは不明）
部署や地域を階層化して管理／表示できること	可能	可能	可能
組織情報、地域情報は任意に設定できること	可能	可能	可能
利用者の権限管理が可能なこと	可能	非公開	可能
アップロードによる一括データおよび個別更新が可能なこと	可能	可能（オプション）	非公開

要件	サイボウズ スタートアップス	警備系大手 S社	通信系大手 N社
異なる緊急事態に対応できるように複数のメールフォームを事前登録できること	可能(メールフォーム数制限なし)	可能(10個まで)	非公開
緊急時の設問項目を、カスタマイズして登録できること	可能 (設問数制限なし)	記載無し	可能(設問数制限については非公開)
緊急時の設問フォームを事前に複数登録できること	可能(設問フォーム数制限なし)	記載無し	可能(設問フォーム数制限については非公開)
複数の個人緊急連絡先が登録できること	可能(メールアドレスを3つとTwitter、スマホ専用アプリ)	可能(メールアドレス2つ)	可能(メールアドレス3つ)
緊急連絡先の個人情報は各個人が更新可能なこと	可能	可能	可能
緊急連絡先の個人情報は権限者でも閲覧できないこと	閲覧できない	閲覧できない	管理者が住所も閲覧可能
緊急連絡先を登録していない人を確認できること	可能	可能	非公開
緊急連絡先にテスト送信できること	可能	可能	△(日常利用可、と記載)
緊急連絡先のデータメンテナンス手段があること	可能(1年、半年、3ヶ月、1ヶ月、しない)	可能(毎月末)	非公開
緊急時に従業員の家族間で安否確認ができること	可能	可能	可能
安否確認する家族の連絡先を複数登録できること	可能(8つ)	可能(7つ)	可能(5つ)
特定部門に限定した管理者を設置できること	可能	非公開	非公開
ユーザー情報を取り扱うページにIPアドレスの制限ができること	可能	非公開	非公開
ユーザー情報の自動連携のためのAPIを提供していること	可能	△(自動アップロード機能、と記載あり)	非公開

5. 安否情報の確認手段

当社のコンセプトは、災害に強いインターネット標準技術の活用です。確認をするための連絡手段として機能を比較すると当社の方が少なく見えますが、災害時に電話が繋がらないのは有名な話であり、私どもとしては実装の予定はありません。しかし、災害に強いとされるインターネット標準技術で提供される専用のスマートフォンアプリや SNS (Twitter) などのサービスに対応することで、緊急時の連絡手段を確保していきたいと考えています。

		Cstap	警備系大手 S 社	通信系大手 N 社
通知 手段	メール	○	○	○
	電話	×	△ (管理者のみ)	○ (追加料金)
	スマホアプリ	○	○	○
	それ以外	○(Twitter)	非公開	非公開
報告 手段	メール	×	○	非公開
	電話	×	○	○
	Web アクセス	○	○	○

6. サービス料金

当社のコンセプトは、シンプルな価格体と低価格です。

この料金以上、一銭も請求いたしません。

※弊社の料金は「プレミアムプラン」で算出

ご利用人数		Cstap	警備系大手 S 社	通信系大手 N 社
初年度料金 (初期費用)	100 人	145,920 (0)	384,000 (200,000)	168,000 (200,000)
	500 人	271,320 (0)	480,000 (200,000)	360,000 (200,000)
	1000 人	373,920 (0)	600,000 (200,000)	552,000 (200,000)
追加料金		一切無し	プランによる	プランによる

※消費税抜き

※ 他社情報は、2017年8月にホームページに掲載の情報を中心に、Cstap内で調査をしたもので、事実と異なる情報が掲載されている可能性があります。注意してご利用くださいますようお願い申し上げます。

■ 安否確認サービスに関するお問い合わせ先

□ サイボウズスタートアップス株式会社(Cstap)

〒141-0031 東京都品川区西五反田二丁目 27 番 3 号 A-PLACE 五反田 9 階

TEL:050-3816-6666 / e-mail:info@cstap.com